



「Fuji-Bow」のペイントの前で。左から、大沢奈々子さん、下平心那高校生記者、西川浩美さん、宮尾玲衣奈さん

アンコンシャス・バイアス

無意識の偏見を払しょくするカギは、女性が「自信」を持って働く姿を見せること

輝く女性に会いに行こう

企画 神奈川県

第3回

株式会社富士防

私たちはつい、消防士は男性、看護師は女性など、職業について無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)を持ってしまいがちです。この企画では、女性が活躍する仕事現場を高校生の視点で取材し、男女誰もがイキイキと輝く社会をつくるためのヒントを探ります。

第3回目は、建設業としては唯一2年連続で「神奈川なでしこブランド」に認定されたサービスを開発し、女性の力を生かして成長を目指す株式会社富士防の、フレッシュな女性スタッフに会いに行きました。(文中敬称略)

Q 就職先として、なぜ富士防を選んだのですか。

A 宮尾 自宅を新築してくれた大工さんの仕事ぶりに憧れ、やがて職業的な夢になつて、建築関係の専門学校に進学しました。就活時に両親から、「体力面と結婚後の再就業を考えると大工は難しいのだね」と言われ、現場監督という職業に出会い、さらに富士防の説明会で修繕工事ならではの

「直す」分野に興味を持ったので、「たてものを育む」この会社を選びました。

Q 「住民目線の現場環境パトロール」など女性社員が開発に貢献した独自のサービスが評判とのこと。開発のきっかけを教えてくださいませんか。

A 西川 女性の事務スタッフが現場を見学した際に、エレベーターに張る養生シートの汚れや、共同トイレの清掃の不備が目についたと意見が出ました。

女性スタッフが気になることは、居住者の皆さんも気になるだろうと思い、女性目線で現場の品質を向上しようとパトロールやコンシェルジュサービスを始めました。

大沢 居住者の方も、男性の職人ばかりより、女性スタッフがいた方がご要望も言いやすいようです。



マンションの掲示板で「あさって洗濯物干せます」など工事の進捗を居住者に分かりやすくお知らせする

Q いまの業務と今後の目標を教えてください。

A 大沢 現場スタッフとして工程管理や居住者さまの対応などを担当しています。今後はさまざまな資格を取得し、現場代理人(現場全体を管理する現場責任者)として現場を受け持たれたいと思っています。

西川 同社の役職者の3分の1が女性社員です。私も将来的にはリーダーや課長以上を目指して働いています。



居住者視点でしっかりと仕上りをチェック

高校生記者の取材記

【取材・執筆】

下平心那(県立横浜国際高校2年)

父の仕事で、中学までベトナムで暮らしていましたが、電気や水道メンテナンスの仕事は全て男性がしていました。日本の建築業界も現場には女性が少ないようですが、大沢さんと宮尾さんの、できることを増やすために資格取得を目指すといった前向きな姿勢に心を動かされました。さらにその姿勢を尊重する社風も素晴らしいと感じ、社会にもその風潮が広まると良いなと思いました。私も自分の可能性にストッパーをかけず、さまざまなことに前向きに挑戦していきたいです。

Q 男女の性差がない、働きやすい職場をつくるにはどうすればいいと思いますか？

A 大沢 ハラスメントへの配慮から、男性から女性へのアドバイスしづらい現状があると思います。男性からアドバイスをもらえるシステムを作れば、互いを無理に意識し過ぎずに、女性の成長につながると思います。

宮尾 コミュニケーションを取り合うことと、女性自身が指揮を執れることが大切だと思います。



朝夕は現場事務所でデスクワーク

Q 女性目線で、「建設業は男性の職場」などのアンコンシャス・バイアスを払しょくするにはご自分の経験から、どのような事が有効だと感じますか？

A 大沢 私は弊社で開校している職業訓練校の1期生として、技術力を磨き、業務に対する自信をつけました。自信を持ち、業務に取り組むことで、徐々に「建設業＝男性」というイメージを変えていければいいと思います。

Q 最後に、高校生へのメッセージを

A 宮尾 自分のやりたいことを見つけた子もいればそうでない子もいる中で、視野を広げているいろいろなものに触れていき、楽しいことや辛いことなど、この先も必ず感じる必要があります。その中で自分が選択したことに対して「正解」「不正解」はなく、自分のやったことが今後の力・成長につながると思うので、いっぱいミスをして学んでほしいなと思います。今後の高校生生活、勉強はもちろんのこと、たくさん遊んで楽しく過ごしてください。

私たち一人ひとりの行動が、未来につながる。
SDGs 未来都市 神奈川県



ニッポンは、何位でしょう？

国別SDGs達成度ランキングで、日本は163カ国中19位です(持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(SDSN)が6月に発表したレポートによる)。

では、「SDGs 5 ジェンダー平等を実現しよう」に限ると何位でしょうか？

答えは116位

(世界経済フォーラムが7月に発表した「ジェンダーギャップ指数2022」による。調査対象146カ国)

むむむ！

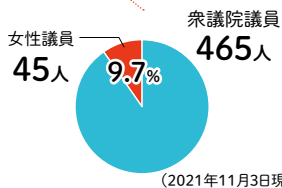
ところで…ジェンダー平等って、分かるような、分かんないような…

え～！なんで？

県のSDGs担当の皆さん、おしえて！

主な要因には“男女の賃金格差がある”“女性の管理的職業従事者が少ない”“女性の国会議員が少ない”などがあげられますね。

日本の衆議院議員には、女性は1割もいないんですよ。



ジェンダー平等な社会とは、男らしく・女らしくではなく、その人らしく・自分らしく生きられる社会のことです。

たとえば職業。“看護師は女性”とか“大工は男性”などイメージで決めつけず、あなたが好きなこと・好きな職業を選んでいいんです。

上の“輝く女性～”の記事でも、女性の工事現場監督など、イメージにとらわれずに輝いている女性を紹介しています

なるほど！



県政策局いのち・未来戦略本部室 左から、主任主事・米積妙早(みさき)さん、SDGs推進担当課長・湊治子さん、グループリーダー・長谷川英樹さん

私たち一人ひとりの行動が、未来につながる。
SDGs 未来都市 神奈川県